

ジイジ・バアバ、  
パパ・ママへ贈る

# アヤと過ごすジイジの日記 心のめばえ

<10>

著者／牟田 泰三  
挿絵／橋本 礼子

3歳6カ月

## 注意書き

道を歩いていると、壁などによくかわいい犬の絵を描いた張り紙がしてあることがある。  
アヤ 「なんて書いてあるの。」

ジイジ「犬のうんちはちゃんとお掃除して持って帰りましょう、て書いてあるよ。」  
と読んでやると納得したような顔をしているが、ちよつと不満げだ。きつと、「かわいい犬あげ  
ます」とか、「迷子のワンちゃんを探しています」というメッセージを期待していたのである。

鏡山公園にも幾つかの立て札があつて、注意書きがされている。注意事項はいくつかあつて、  
ちゃんと挿絵がついている。そのうちのつは鏡山への登山口にあつて、蛇の絵が描いてある。これ  
には興味津々だ。

アヤ 「なんて書いてあるの。」

ジイジ「これから先は登山道です。途中蛇がでることがありますから、注意下さいだつて。」  
アヤ 「蛇が出たらどうするの。」

ジイジ「うっかり踏んだりしないように気をつけるんだね。踏ん  
だりしなきゃ蛇のほうから向かつてくることはないんだよ。」

アヤ 「踏んだら噛むの？」

ジイジ「うん、運が悪ければ噛まれるかも知れないね。毒を持った蛇もいるから気をつけたほ  
うがいいね。でも、怖がることはないよ。気をつけていれば大丈夫だよ。」



ある池の近くにはカッパの絵が描かれた立て札があつた。子供たちが池の近くで遊んで池に  
落ちたりしないように注意書きをしたのであろう。「危険、立ち入り禁止」と書いてある。最  
近の子供たちはどのくらいカッパという存在を知っているのだろう。アヤも案の定

「カッパって何。」

と聞く。これはなかなか説明が難しい。

ジイジ「頭にお皿がのつて、口が鳥みたいに失つていて、お猿さんみたいな緑色の生き物だよ。  
池とか沼に住んでいるんだ。」

アヤ 「カッパはどうして危険なの。」

ジイジ「危険かどうか分からないけど、子供たちにいたずらをしてひどい目に遭わせたりする  
から気を付けましょうって書いてあるんだと思うよ。」

アヤ 「どうしてカッパを退治しないの。」

これ以上深入りしたら答えに窮することになりそうだ。そろ  
そろカッパは架空の生き物だということを教えなければ。

ジイジ「カッパはね、本当はいないんだよ。誰かがこんな生き物  
がいたら面白いなあつて考えたんだよ。」

アヤ 「どうしてそんなものを考えるの。」

ジイジ「アンパンマンと同じだよ。アンパンマンも本当はいないん  
だよ。漫画の中で活躍してるだけでしょう。」

アヤ 「どうしていないって分かるの。」

しまった、アヤの夢をつぶしてしまったかな。



お魚図鑑を見ていると、危険な魚にはドクロのマークがつけてあつて、不用意に触ったりしな  
いように注意してあることがある。このドクロのマークが気になるのか、アヤは真つ先にこのマー  
クを見つけて、

アヤ 「ハオコゼはどうして危険なの。」

ジイジ「ハオコゼは小さい魚だけど、背びれのトゲに毒があつて刺されるとひどく痛いんだよ。」  
アヤ 「どのくらい痛い。」

ジイジ「ジイジは刺されたことがないから分からないけど、転げ回るくらい痛いんだつて。」

アヤ 「ふーん。」

お魚図鑑を漫然と見るだけでなく、ちよつとした手がかりを元に会話を膨らませていく  
と、お魚の世界がどんどん広がっていく。

## ジイジへのお便り

エッセーを読んだ感想などをお寄せください。  
weekly@presnet.co.jp  
「心のめばえ」係へ

プロフィール むたたいぞう 1937年、福岡県生まれ。  
九州大学理学部卒業、東京大学大学院物理学専攻修了、  
理学博士。京都大学助手、助教授、広島大学教授、学長、福  
山大学学長などを歴任。主な著書に「語り継ぎたい湯川秀  
樹のことば」(丸善出版)、「電磁力学」(岩波書店)、「量子力  
学」(裳華房)などがある。東広島市在住。

連載中の「心のめばえ」シリーズは、牟田のホームページでも読むことができます。<https://home.hiroshima-u.ac.jp/mutata/>